

第10回 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会要録

- 【日 時】 平成29年10月3日(火) 午後7時00分～9時10分
- 【場 所】 武蔵野市役所 4階 412会議室
- 【出席委員】 阿部迪子 今木仁恵 岡内歩美 加藤慎次郎 木村 浩
齋藤尚志 迫田洋平 白石ケイ子 田口 誠 竹下 登
西上原節子 能勢方子 花俣延博 濱中洋子
平岡直樹 前田美和子 茂木 勉 山本信之(敬称略)
- 【事務局】 クリーンセンター所長、ごみ総合対策課減量企画係長 他
- 【欠 席】 なし
- 【傍 聴】 なし
- 【配布資料】
- 資料1 ごみ収集の在り方見直しの体系の確認
 - 資料2 行政収集の見直しの方向性
 - 資料3 店頭回収・自主回収への支援策についての検討
- <参考資料>
- ・資源物収集隔週化による影響調査票

1 開 会

2 議題

(1) 行政収集の見直しの方向性について

【事務局】 資料1・資料2について説明。

【委員長】 今あるサービスを変えらるとなると市民の方に論拠を示さなければいけないが、こういった根拠で十分に伝わるかどうか、またサービスについて事業者・市民等色々な立場から議論いただきたい。

【委員】 一般市民に向けて、行政収集が減る、つまり行政サービスが悪くなるということと事業効果を併せてどう説明していくかが大きな課題である。今回、見直しを行う目的は、「収集体制の合理化」が最も大きな意義だと考える。ただ、委託料のコストで考えると、車両延べ台数で委託料を支払っているため、収集頻度の多少ではなく、ごみ量が減らないと委託料は減らないところにコスト課題がある。次に、見直しをするにあたって、受け皿となる他の取り組みも重要だと考える。サービスが減るなか、受け皿がある安心感は大事である。三番目として、現在の社会情勢に見合った収集頻度。現状にあった適正なサービス量はどれくらいなのか、ということもここで議論する余

地がある。ごみ量はどれくらい減るかということに関しては、今の段階では不明であるため、市民への説明根拠としてはなかなか弱い部分がある。よって、大義としては以上申し上げた三点が主だと考える。

【委員】第4回資料の「スーパーの店頭回収による年間収集量試算」でペットボトルの店頭回収率は7%となっており、なかなか市民の皆様には店頭回収が知られていないという現状がある。市の東側に住んでいる住民として、西友とアコレ、この2店舗は非常に重要な受け皿となるお店なので、行政からも働きかけをしてほしい。そして、店頭回収率が7%から20%くらいになってほしい。

【委員】店頭回収率が増えると、ごみ量とコストがどれくらい減るかどうかは難しいところがある。武蔵野市は、ペットボトルとその他プラスチックに関しては、ここから20~30キロ離れている瑞穂町に持って行って処理をしている。店頭回収でペットボトルのごみ量が減るのは良いが、コスト面で減るかということと少し難しい。

【委員】最初から減るということは無いと思っているが、やっぱり一歩踏み出すことが大事で、少しずつ減っていくのであろうと考えている。

【委員長】先ほど特定の事業者への働きかけ、という話があったが、そういったことは想定されているか。顕彰などの制度を整えて自主参加とするか。

【事務局】できるだけ多くの事業者に参加していくことが、実効性のある受け皿制度になると考えている。

【委員長】規模を広げる対象としては、スーパーなのか。

【事務局】スーパーもそうだが、例えば商店街。店頭回収に来てくれたついでに買い物をしていってもらう仕組みづくりが効果的ではないか、と考えている。

【委員】やはり一番の大義は、表の一番下を書いてある「現在の社会情勢に見合った」というところ。世の中の流れはこうだ、というのを一番にしたほうが説明としてもわかりやすい。次に、そう簡単にコストは下がらないという話が大事だと思う。表のレベル・順番を少し見直したほうが良い。

【委員長】先ほど適正なサービス量の維持という話があったが、人によって必要とされるサービス量は違うと思う。ごみやコストだけでなく、サービス要素も大事だと思う。

【副委員長】「減量資源化行動」は大事だと思う。どういったきっかけづくりをすればよいか検討したほうが良い。つぎに、資源物収集隔週化による影響調査票についてだが、このアンケートはどういう見込みでとっているのかわかりづらいので伺いたい。

【事務局】このアンケートについては、見直しの方向性を考えるための参考にしているものである。福祉部門については、これから部署と連携して聞き取りを行いたい。

【委員】今回のアンケートは、各年代10世帯程度で規模は小さいが、ごみの出し方が不便になる層がどこなのか、まずは入口として傾向が見たかった。大規模なアンケート調査となると、あたかも正式に決まったことのように誤解されて捉えられてしまう。今回、クリーンむさしのを推進する会へお願いすると同時に、世代間のトレンドをつか

みたい、という思いがあって今回のアンケートを取り組んだ。

【副委員長】私が心配しているのは、これを見ることによって「必ずやるんだ」と勘違いしないか、というところ。色々な事情を持つ家庭のなかでも、共通理解をもってやっ
ていかないと、少ないデータが意味を成すものにならない、と懸念している。このア
ンケートは施策を考えるにあたってとても大事なものになっていくと思う。

【委員】このアンケートをするにあたって、なるべく色々な世代が良い、との説明を受け
た。私から 50 代～70 代の方にアンケートをお願いし、説明を行った。私がお願いをし
たのは、いわゆる一般家庭だが、缶・ビンはそんなに沢山出ないということだった。
頻度に関しては、好意的な印象だった。

【委員】個人的な話だが、自分は三鷹市民で、三鷹市はビン・缶・ペットボトルの収集は
月 2 回。紙に関しては毎週。自分の家で一番多いのはその他プラスチックだが、これ
は週 1 回。先ほどのお話にもあったが、社会情勢に沿った適正なサービスはどういう
ことか、ということに関して言うと、私の場合はビン・缶・ペットは隔週でもいい気
がする。今回悩ましいのは、やはり瑞穂町に持っていつていることでコストがなかな
か下がらないということ。極論、これが瑞穂町ではなく近いところに持っていけ
るのであれば、このタイミングで隔週にしやすいが、行政サイドとしては今のタイミ
ングでいいのか判断に悩ましい。今回、市民委員も大勢いらっしゃるので、ビン・缶・
ペットボトルの収集が隔週になったらどうなるのか、ご意見いただきたい。

【委員】私自身は 30 代、共働き夫婦で子ども 2 人の 4 人世帯。このような世帯には、影響
があると思う。一方で、私の住むマンションは 365 日 24 時間ごみが出せるシステムに
なっているので、ごみ置き場がいっぱいになっても個人的には影響ない。ただ、マン
ションの管理人は困るだろう。マンション暮らしの人には、収集頻度が変わってもサ
ービスの低下を感じづらいと思う。

アンケートをとる対象として、場所、世代で見ても面白いが、年代・就業率等も含
めてアンケートをとっても良い。また、比較的若い世代へのサービスの中に、ごみ減
量につながる副次的サービスがあれば、大きくライフスタイルを変更することなくス
ムーズに減量につながっていくと思う。若い世代のうちから習慣化すると、何十代に
なっても減量できていく。これが中長期的な減量になると思う。

【委員】私も 30 代でマンション暮らしである。一市民として見ると、行政収集の見直し
の大義を見る限り、市民に対してメリットではなくデメリットしか見えてこない。元
から協力的な人はいいが、納めている税金に合ったサービスを求める人に対しては説明
が難しいのではないかと、思う。私も 365 日 24 時間ごみが出せるマンションに住んでお
り、収集頻度が変わっても生活は変わらないように思う。集合住宅に住んでいない人
を想定すると、私自身のように子どもが 2 人いる家庭だとペットボトル・雑紙の量は
かなり多いので隔週回収は受け入れにくいと思う。

【委員】私はマンションに住んでいるが、ごみを溜められないようになっている。高齢者

世帯なので隔週になってもあまり関係ない。私のごみ問題で一番関心を持ったのが、ごみ処理に沢山税金が使われているところ。一般市民にそれが知れ渡れば、ごみ減量をして税金をもっといい方向に使いたい、と考えると思う。

【委員】私は60代で団地に住んでいる。私もペットボトルは隔週で良いと思っている。雑紙は集団回収に出しているが、それまでに沢山たまってしまう。先日、徳島県の上勝（かみかつ）町に視察に行ってきた。そこでは、生ごみを焼却するところも、収集車もない。市民が34の分別を行って、朝7時から14時までに自分たちでリサイクルセンターにごみを持っていく。自分で持っていけない世帯は、3か月に一度取りに来る支援がある。ごみを出すのが3か月に1回でも生活は成り立つのか、という印象である。店でお茶を買ったら、「この商品はごみが出る」と言われた。ごみに対して、とても意識が高かった。

【委員】我が家は2人で住んでいる。ごみで多いのはその他プラスチック・雑紙・ダンボール。新聞は販売店に出しており、雑紙・ダンボールは集団回収。その他プラスチックに関しては、どうしようもなく出るものだが、自分の意思でレジ袋とペットボトルは減らせる。5ミリ以下のマイクロプラスチックによる海ゴミが問題になっていると聞いている。環境問題は一番考えなきゃいけないところだと感じている。

【委員】70代夫婦2人暮らしのマンション暮らしである。特に問題になることはない。その他プラスチックについては、なかなか難しい問題だが、結局は有料化が効果的ではないかと思う。

【委員】2人暮らしである。缶・ビンのごみはめったに出ない。隔週になっても困らない。

【委員】私は吉祥寺南町に住んでいる。20年以上前から、知人の影響もあって、生ごみとプラスチックの減量に力を入れている。その他プラはどうしても出ているが、レジ袋とペットボトルは極力使わない。缶・ビンも月1回程度なので、頻度が減っても困ることは無い。しかし、他世帯ではごみは市が解決してくれるものと思っているところが多く、意識はなかなか変わらない。

【委員】商店会の考えを話したい。武蔵野市内の商店街は、吉祥寺、三鷹駅北口、武蔵境駅の南北の商店街、ほかにも緑町・関前等あるが、それぞれで全く違うごみの出方をしている。吉祥寺は大型店が多く、ごみは業者と契約をして引き取ってもらっているところが多い。吉祥寺で行政収集に頼っているお店は飲食店が多いので、種類としては生ごみが多い。また、納品に使われているダンボールである。医療関係もダンボールが多い。対して三鷹は、物販はほとんどなく、ほとんどが飲食店である。武蔵境のすきっぷ通りになるとビル単位の収集はあまりなくて、行政収集が多い。武蔵野市は小さいけれども、ごみの質が全然違うので、一つの網にかぶせようと思ってもそれぞれで事情が違う。効率化するには、もっと細かく分析が必要ではないかと思う。

【委員】事業者の立場で話す。吉祥寺の世帯構成は単身率が6割であり。ちょうど真ん中の世帯は少なく、あとは高齢者世帯が多い。商店が2～3千。新聞をとっていただけ

るのは単身世帯ではないので、単身率が上がっている現状では、新聞のごみはこれから増えることはないと思われる。逆にペットボトル・プラが増えてくるのではないか。ペットボトルに関してだが、特に水は多量に買って家に運んでもらう世帯が多いので、店頭で買ってないと思われる。現に、自分は運輸業の仕事も行っているが、配達物の約9割は自分用に注文した購入物である印象がある。このペットボトルを店頭を持っていくかという、スーパーで買っているものばかりではないので疑問が残る。行政のほうでスーパー以外に場所を作っていく支援のほうがいいのではないか。収集頻度を隔週にしても、ごみ量が減るとは思えないので、その先の売却先の支援が効果的だと思う。

【委員】自分は紙の間屋がメインで、資源物の回収も行っている。紙パック回収を提唱している会社で、洗って出してもらってリサイクルして欲しいと各企業をまわったが30年かかった。すぐに意識を変えるのは難しいと実感している。市民側の立場でいうと、家族5人で住んでいる。収集頻度が隔週となっても影響ないかな、と思う。逆に収集頻度が減ると困る、くらいじゃないとあまり効果はないのではないか。6割いる単身世帯のほうに影響は大きくて、隔週になると面倒で燃えるゴミに入れてしまうようなことが起きるのではないかと考えるほうが自然だ。

【委員】減量協議会のおきから10年近く隔週化について関わってきた。10年くらい前ならまだしも、なぜ今このタイミングで隔週化？という印象。ペットボトル・雑紙は、各家庭で努力して保管していただくことになるので、十分な周知期間が必要である。高齢化世帯が増えていくなかで、ごみ出し困難世帯も当然多くなる。できるだけ収集日はシンプルなほうが良いのではないかと。武蔵野市は今後人口が増加していく見込みのなかで、他のごみは減っていてもその他プラスチックだけは微増していて、当社においても課題となっている。隔週が今すぐには難しい、ということになったとしても地区割が8分割から10分割にするだけで、収集する側からすると将来的にはコスト増を防げる。まずは10分割で平準化して、それから隔週化を進める、というのも一つの方法ではないか。いずれにしても、政治的な判断になると思う。

【委員】コンビニは行政収集ではなく、収集業者と契約してごみを持って行ってもらっている。自分の店では、ごみ箱を外に置いているが、何でも入っている。一番多いのはペットボトル。売上の種類でも一番多いのがペットボトル。これから家庭ごみを隔週化、有料化すると持ち込まれる側への負担がかかると思う。地域のどこかに回収ボックスを設置したり、事業者に圧縮機を置いたりすると大いに助かると思う。

【委員】いなげやの店頭回収は、ペットボトル・牛乳パック・白色トレイ。コンビニほどではないが、多いところでは1時間に1回ほど袋を変えている。いなげやで売っているものなので、持ってきたら回収する。住民側を考えた時に、隔週化したときに、高齢者が店頭回収に持ってきてくれるか、という点も難しいと思う。店頭回収に持って来られない方への影響は少なからずある。

【委員長】 貴重なご意見をいただいた。これからも検討していきたい。

(2) 店頭回収及び自主回収に対する支援策について

【事務局】 資料3について説明。たたき台なので、ご意見をいただきたい。

【委員】 先ほど、店頭回収が増えたら困るというご意見があったが、いなげやさんはいかがか。

【委員】 極端に増えることはないと思う。資料に「回収量に応じた補助金の交付」と書いてあるが、重量を測って申請書を作る手間と人件費を考えたら、あまり効果がないようにも思う。店頭回収については、こちらで売っているということもあるので、顕彰制度などで店の宣伝効果になるようなものが良いと思う。

【委員】 回収ボックスに他店のごみが入っていることはあるのか。

【委員】 明らかに販売していないものが入っていることもあるが、やむを得ないところもある。

【委員】 買った店に返す、という意識はあまりないと思う。そこに回収ボックスがあるから、という意識だと思うし、設置している事業者側もそこまで気にしていない。

【委員】 店頭回収は、そのまま店での買い物につながっているのか。

【委員】 店頭回収のついでに買い物をするのではなく、買い物のついでに店頭回収に持っていく、という考えだと思う。

(3) 次回の日程

【事務局】 3月の報告書と、今現在の議論状況を新市長に報告する予定だ。それから、次回の開催を決めたいと思うが、11月以降になる予定である。

(4) その他

【事務局】 前回の議事録の修正は、本日までとなっていたが、修正がないようであれば、委員名を伏せてホームページで公開をする。

【委員一同】 特に修正はない。

4 閉 会

以上